

日本核医学技術学会第30回東北地方会総会学術大会開催にあたって

日本核医学技術学会第30回東北地方会
大会長 鎌田 伸也

このたび、日本核医学技術学会第30回東北地方会総会学術大会の大会長を務めさせていただくこととなり、身の引き締まる思いでご挨拶申し上げます。日頃より学会活動の発展にご尽力いただいております会員の皆様、ならびに本大会開催にあたり多大なるご支援を賜りました関係各位に、心より感謝申し上げます。

本大会は、2025年9月6日（土）～7日（日）の2日間、秋田市文化創造館にて開催いたします。記念すべき第30回大会のテーマは「知識と技術のアップデート～さらなる臨床貢献を目指して～」といたしました。

東北地方会の歴史を振り返ると、第1回大会は1992年6月、ここ秋田の地で開催されました。それから33年の歳月を経て、今回で30回目の節目を迎えます。私自身も核医学に携わって29年余りとなりますが、この間の技術革新には目を見張るものがあります。装置の高性能化、新しい核種やトレーサーの臨床応用、解析ソフトウェアの進化など、核医学技術は日々新たな局面を迎えています。

しかし、どれほど技術が進歩しても変わらないのは、患者さんのために最良の検査を提供したいという私たちの想いです。そのためには、常に知識と技術を更新し続ける姿勢が不可欠である一方、これまで諸先輩方が築き上げてくださった基礎的な技術や貴重な経験を大切に、それらを新しい時代に活かしていくことも同じように重要だと考えております。

東北地方会の特色として、2008年の第14回大会までは各県の温泉宿で開催されていた時代がありました。学術講演が終わると、著名な先生方から若手技師まで100名以上が畳の大広間に浴衣姿で集い、御膳を前に一堂に会する光景は、まさに圧巻でした。夜が更けると、宿泊部屋ごとに「心筋」「脳」などといったそれぞれが関心を持つ専門分野に分かれ、お酒を酌み交わしながら熱いディープな議論が朝まで続いたものです。そうした場で諸先輩方から直接お話を伺えたことは、私にとって何物にも代え難い財産となっています。このような交流の伝統は、時代を経てもなお、会員同士の横のつながりの良さとして受け継がれており、それが私たち東北地方会の大きな強みとなっています。

今回は30回の節目にふさわしく、各分野の第一線でご活躍の先生方をお迎えし、充実したプログラムを企画いたしました。記念講演では金沢大学の中嶋憲一先生を、特別講演では福島県立医科大学の伊藤浩先生をお迎えいたします。ランチョンセミナーでは岐阜ハー

トセンターの中川正康先生に、また PET 技術的検討分科会では秋田県立循環器・脳脊髄センターの茨木正信先生にご登壇いただく予定です。

さらに、企画委員会講演では、会員の鈴木有子氏による女性技師の活躍に関する講演を予定しており、コメンテーターには岐阜県総合医療センターの太田三恵子先生をお迎えいたします。太田先生は今年度の日本核医学技術学会総会学術大会において女性初の大会長を務められ、核医学分野における女性活躍推進の象徴的存在でいらっしゃいます。ここ東北地方でも、研究発表や座長を務める女性技師の姿が目立つようになり、全国の学会で活躍する女性技師も増えてきており、その成長ぶりには心強いものを感じています。今回の講演が、多様性豊かな核医学技術の発展に向けた一歩となることを期待しております。

東北七県（青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟）から核医学に携わる多職種の皆様が秋田に集い、最新の知見を共有し、日々の臨床の課題について語り合う。この伝統ある交流の場が、参加される皆様にとって新たな発見と学びの機会となり、明日からの臨床に活かしていただけることを心から願っております。

秋田の地で交わされる議論と交流が、新たなアイデアや協力関係を生み出し、核医学技術のさらなる発展につながることを確信しております。そして、記念すべき第 30 回大会から、未来に向けた新たな歴史が紡がれていくことを願ってやみません。

最後に、本大会の開催にあたりご尽力いただいた秋田県実行委員会の皆様、日頃から学会活動を支えてくださる関係者の皆様、そして本日お集まりいただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。活発な討論と有意義な交流を期待しております。